

巻頭言

神奈川県小児保健協会
会長 後藤 彰子

入江教授、水原教授、松山教授と引き継がれてきた神奈川県小児保健協会の会長を平成 18 年度から引き受けさせて頂きました。私と小児保健協会のご縁は、昭和 46 年以来神奈川県立こども医療センター内に事務局があり、その活動を身近に感じてきたこと、第 43 回日本小児保健学会（会頭小宮弘毅先生）のお世話をさせて頂いたこと、私の専門とする新生児医療が、疾病だけでなく、予防・保健と切り離せないことがあげられます。

ここ十数年医療を取り巻く環境は大きく変わってきました。家庭・地域・学校も含めた中で、医療と保健を包括的にとらえ疾病を持つこどもたちを、家族と共に全人的に関与し疾病を治していくという認識を持たなければいけないでしょう。

また誰にでも疾病が発生する環境にいるという現実にもっと危機感を抱かなければいけないと思います。コンビニは 24 時間営業、夜も昼のように明るい。夕飯を 12 時過ぎに食べる幼児も少なくない。人間の本来の生活リズムからかけ離れるほど心と体に不具合が生じます。自律神経が十分働かなくなるからです。不登校や引きこもりなど、現代の象徴する心の病の原因の一つには体内時計の変調が大きな要因ではないとも言われています。

乳幼児の行動生理学者の動物実験の研究によると、親に十分に可愛がられて育ったこどもは、ストレス反応を速やかに集結させて、攻撃性や恐怖反応を低く抑えることが出来るようになります。今の日本では、少子化を憂う前に現在のこどもたちをいかに健全に育てていくかが最大課題だと思われます。

神奈川県小児保健協会は、地方会や、小児科医会と力を合わせていくとともに、日本小児科学会や日本小児保健学会が提唱している小児保健法の制定が一刻も早く実現することを願い、21 世紀を担うこどもたちに視線を合わせて社会を成熟させ、育児が快適に出来る基盤作りをする、そんなお手伝いを地道にしていきたいと思っています。

子どもの事故が起こりにくい街づくりを目指して

横浜市旭区福祉保健センター
所長 三宅 捷太

横浜市の死亡統計で、過去 40 年間【不慮の事故】が子どもの死因の 1 位になっています。平成 17 年度の 15 歳未満の死亡は 166 人で(全死亡の 0.7%のみ)、10 年前より 25%も減少していました(私が研修医だった昭和 40 年代後半のこども医療センターでの死亡数より下回っています)。その小児死亡の中で、不慮の事故・自他殺・SIDS による死が 22%37 人となっており、周生期の疾病・先天異常の 40%を除くと、どの後天性の疾病よりも高い数字となっています。そしてこの 10 年前より実数で約 10 人も増加しているのです。

0 歳代では対象年齢人口比での頻度は他の年代より断然に高く、特に窒息による死亡が目立っており、小児の不慮の事故全死亡例の 30%に達していました。この死亡の背景には、多くのニアミスがあることが推定され、その実態は平成 17 年秋に行った 2808 件の全市立保育園児と 3 歳児健診での事故のアンケート調査の分析から伺えます。入院 1 件に対し 37 件の外来受診、41 件の家での対応という比率で発生し、事故の内容は、転落・転倒が 54%、やけどが 15%、誤飲 7%、交通事故 4%、溺れ 3%となりまし

た。頻度の減っている交通事故に対し、家庭内の事故への対策が急務といえます。

横浜市では、子どもの事故の起こりにくい街づくりを目指し、「子どもの事故予防推進検討会」を設置して、地域ぐるみのセーフティプロモーションを展開することになりました。今日まで家庭内の事故は、不運なこと・保護者の責任として不問に付されてきた傾向があります。そのために、情報の共有化や原因分析・予防対策が採られず社会的なシステムがされていませんでした。

子どもが本来持っている危機回避能力を高め、大きな事故に至らぬように信じて待つ親心を育てようではありませんか。その働きかけとして、95%の親子が参加する乳幼児健診での医師スタッフによる個別支援、ミニ座談会の開催・パンフレットの作成配布、地域住民の協力を得て、公園や遊園地など、自然の中で子どもの冒険心・探究心を育む。怪我の体験も子ども自身が運動限界を認知できる大切な機会としていく。

そして、家庭内の危険を減らす努力も必要です。例えば、頭を通さない柵の幅 11cm 以内、よじ登っても乗り越えられない柵の高さ 90cm 以上、重心よりも高い浴槽の高さ 50cm 以上。さらに、自転車・三輪車用のヘルメットの装着、整理整頓に努めて、タバコを家庭内からなくし、玩具・化粧品などピンポン玉以下の大きさのものは 1m 以上の高さのところへ移動する。などなど、私たちの小児保健の輪で、子どもの事故防止対策を広げましょう。